Tokyo Institute for Advanced Studies of Language

2025年度

理論言語学講座要項

東京言語研究所

開講期間		申込期間	
前　　期	2025年 5月～7月	前　　期	2025年3月28日(金)～5月2日(金)
夏期集中	2025年 8月	夏期集中	2025年6月27日(金)～7月28日(月)
後　　期	2025年 9月～12月	後　　期	2025年8月22日(金)～9月22日(月)

2025年度　理論言語学講座要項　目次

委員長挨拶（研究所沿革）運営委員・顧問…… **P2～3**

講座申込方法…… **P4**

講座日および教室…… **P5**

受講規定…… **P7**

講座紹介…… **P8～9**

時間割…… **P10**

春期講座のご案内…… **P11**

書籍のご案内…… **P12**

理論言語学講座講義概要…… **P13～28**

教室地図…… **P29**

運営委員・顧問（2025年4月～／50音順）

運営委員長●西村　義樹（東京大学教授）

運営委員●大堀　壽夫（慶應義塾大学教授）
川村　　大（東京外国語大学教授）
窪薗　晴夫（国立国語研究所客員教授）
小柳　智一（聖心女子大学教授）
酒井　智宏（早稲田大学教授）
嶋田　珠巳（明海大学教授）
杉崎　鉱司（関西学院大学教授）
髙橋　将一（青山学院大学教授）
長屋　尚典（東京大学准教授）
平岩　　健（明治学院大学教授）
広瀬　友紀（東京大学教授）
松井　智子（中央大学教授）

顧問●池上　嘉彦（東京大学名誉教授／昭和女子大学名誉教授）
池内　正幸（聖徳大学教授）
今西　典子（東京大学名誉教授）
上野　善道（東京大学名誉教授）
大津由紀雄（関西大学客員教授／慶應義塾大学名誉教授）
尾上　圭介（東京大学名誉教授）
梶田　　優（上智大学名誉教授）
杉岡　洋子（慶應義塾大学名誉教授）
西山　佑司（慶應義塾大学名誉教授）

運営委員長挨拶

運営委員長挨拶

東京言語研究所は1966年3月、故服部四郎博士（東京大学教授、当時）の構想をもとに開設されました。当時の日本には、大学システムの制約上、満足のいく言語学の教育体制がほとんど存在しないことに強い危機感を持たれた服部博士は、大学の枠を超えて、才能や適性のある人々に言語学の重要性と面白さを認識させる「言語学の塾」を創設しようと考えられました。

その構想に沿って、研究誌や月刊誌の刊行、公開講座や国際セミナーの開催など数々の企画が実行されました。その中核に位置づけられていたのが、1966年5月以来、休むことなく毎年開講されてきた理論言語学講座です。これは、第一級の教授陣を配した、体系的なカリキュラムからなる言語科学専門のコースです。1960年代と今日とでは、言語学環境は大きく変わりましたが「言語の理論的研究に裏打ちされた真の言語学基礎教育をおこなう」という講座の目的・理念は今でも変わっておりません。

その一方で、理論言語学講座も21世紀の言語科学が向かう先を見据えて、新しいカリキュラムを構築し、人々の現代的要請に応えようとしております。2016年に研究所が開設50周年という重要な節目を迎えたのを機に、今後の理論言語学講座のあり方についていろいろ検討を重ね、2017年度から理論言語学講座の開講時間と時間割を大幅に変更いたしました。具体的には、毎日2時限（各90分）x 11週という時間割から毎日100分の1時限制に変更し、また講座を原則として半期制にしました。1日に受講できる授業数は減りましたが、授業開始時間が6時から7時に変わったことに伴い、仕事や大学の授業を終えてからの参加が容易になったのではないかと思われます。またこの改革に伴い、理論言語学講座の授業が一部、集中講義として実施されることになりました。また2020年からはオンライン授業が導入され、首都圏以外の方々の受講も可能になりました。

本研究所では、このような形で理論言語学講座の一層の充実を図ると同時に、以下のような多彩な事業を毎年企画しています。

（ⅰ）キックオフである春期講座
（ⅱ）ことばと関連した諸分野の第一線で活躍されている講師による公開講座
（ⅲ）理論言語学の専門家を講師に迎える集中講義
（ⅳ）教師のためのことばセミナー
（ⅴ）「理論言語学の現代的課題」リレー講義

一人でも多くの方が、言語の本質を問題にする本講座を受講され、ことばについて考えることの楽しさと奥深さを共有していただきたいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

東京言語研究所 運営委員長
西村　義樹

2025年度　理論言語学講座　受講要項

受講条件

大学教養課程修了程度の一般的な学力があることが望ましいが、学歴、年齢、国籍は問わない。

申込み方法

東京言語研究所ホームページの「受講申込みフォーム」に必要事項を入力し、送信する。

申込期間

1．前期講座　　3月28日（金）～5月2日（金）AM10:00まで
2．夏期集中講座　6月27日（金）～7月28日（月）AM 10:00まで
3．後期講座　　8月22日（金）～9月22日（月）AM10:00まで

※期日までに新規生、および継続生ともに申し込みをし、受講料の振込をおこなう（申し込みと受講料振込の締切は同日）。
※「新規生」とは、東京言語研究所で理論言語学講座を初めて受講する方（過去に春期講座や集中講義、公開講座を受けた方は含みません）。
※「継続生」とは、過去6年以内に理論言語学講座を受講した経験のある方。

※受講料の振り込みを確認次第、事務局より受講票をE-mailにてお送りします。講義に関する情報は講義開始の前週木曜日までにお知らせします。

■入学金 11,000 円（新規生のみ／税込）
■受講料（税込）
1.一般
・半期1課目 25,000円
・通年1課目 50,000円
2.学生・大学院生
・半期1課目12,500 円
・通年1課目25,000円
※ 通信教育課程や課目等履修生は一般受講料となります。

■受講料の振込先
1.郵便振替　00110-8-43537
（名義）財団法人　ラボ国際交流センター

2.銀行振込
ゆうちょ銀行（銀行コード番号9900）
当座貯金　0一九店（ゼロイチキュウ店）
店番　019　口座番号0043537
（名義）財団法人ラボ国際交流センター
ザイ）ラボコクサイコウリュウセンター

りそな銀行（銀行コード番号0010）
新都心営業部支店（支店番号675）
普通預金　口座番号6726641
（名義）財団法人ラボ国際交流センター
ザイ）ラボコクサイコウリュウセンター
※振込手数料は受講者負担となります。

3.海外からの送金情報
〇BANK　ACCOUNT
・Bank Name ＆ Address：Resona Bank, Ltd
Shintoshin Banking Department
6-12-1 Nishi-shinjuku Shinjuku-ku Tokyo Japan
・Account Number：Savings account　6726641
・SWIFT Code：　DIWAJPJT
・Nominee：Labo International Exchange Foundation
1-3-21, Okubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0072 Japan
※海外からの送金の場合も、振込手数料は受講者負担となります。
手数料は、国や銀行によって異なりますので各自で確認ください。

前期／開講式、およびオンラインガイダンス

●4月19日（土）10：00～12：15
1．ミニ講義「言語研究の面白さ」（仮）　講師：上野善道（東京大学名誉教授）
2．2024年度理論言語学賞授賞式
3．理論言語学講座オリエンテーション
（3月28日（金）より東京言語研究所ホームページより申込受付開始）

後期／オンラインガイダンス

●9月13日（土）10：00～11：15
1．ミニ講義「言語研究の面白さ」（仮）　講師：酒井智宏（早稲田大学教授）
2．理論言語学講座オリエンテーション

※ガイダンスは受講を確定された方だけではなく、受講を検討中の方も受けられます。

講義

1.スケジュール
月～金曜、前期10回、後期10回　19：00－20：40　100分　（祝祭日は休講）

2.日程

	前　期	後　期
月	5/12,19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,14	9/29,10/6,20,27,11/10,17,12/1,8,15,22
火	5/13,20,27,6/3,10,17,24,7/1,8,15	9/30,10/7,14,21,28,11/4,11,18,25,12/2
水	5/14,21,28,6/4,11,18,25,7/2,9,16	10/1,8,15,22,29,11/5,12,19,26,12/3
木	5/15,22,29,6/5,12,19,26,7/3,10,17	10/2,9,16,23,30,11/6,13,20,27,12/4
金	5/16,23,30,6/6,13,20,27,7/4,11,18	10/3,10,17,24,31,11/7,14,21,28,12/5

夏期集中	言語類型論（長屋尚典）　8月8日（金）～10日（日）
	言語心理学（広瀬友紀）　8月15日（金）～17日（日）

※夏期集中の講義形式については、対面講座とその様子をリアルタイムで配信するオンライン講義を実施予定です。

３．対面形式講義　実施場所：　新宿区大久保１－３－21
ルーシッドスクエア新宿イースト２階　ラボ国際交流センター内

４．申込みをされた時点で、以下の事項に同意されたものとします。

・全講義オンライン（ZOOM）で配信します。ZOOMのよくあるご質問などをご参照の上、ご自身で設定してください。
※夏期集中講義については、対面形式の講義とのハイブリッドの予定です。

・講義はリアルタイムでの受講のみで、ご自身での講義の録画はできません。
※合理的配慮に基づき、障がい者手帳をお持ちの方に録画を許可する場合があります。その場合は、申し込み時に事務局にご連絡ください。

・事務局の内部資料として、講義全般を録画します。事務局が録画した講義の公開や二次使用はいたしませんのでご了承ください。

・参加者のパソコン等の性能やインターネット回線の状態によっては、正常に受信できない場合があります。接続環境の良好な場所からアクセスをお願いします。オンライン講座に関するパソコン操作やインターネット環境に関する技術的なサポートは行っておりませんので、必ず、事前にご確認ください。

・ZOOMに入室される際には、登録の苗字でご参加ください。

・講師への質問は、受講講座開講期間中に限ります。

・次のような好ましくない行為があった場合は、退出、受講の停止、もしくは受講の取り消しをすることがあります。なおその場合は、受講料の返金は致しません。

①他の受講生の迷惑となる行為や、授業の進行を妨げるような行為を行った場合
②事務局の業務妨害や運営業務の遂行を妨げる行為があり、事務局が不適当と判断する場合。
例）他の受講生、講師、事務局スタッフへの誹謗、中傷や迷惑行為を含む
③授業のリンク（招待URL）、および資料などの情報を他者に共有する行為を行った場合。
④個人での録音、録画、スクリーンショットでの撮影を行った場合。

５．講義資料

・講義資料は、原則的にGoogleドライブにアップロードします。
※Googleドライブを使う際に、無料で入手できる「Googleアカウント（E-mailアドレス）」を準備してください。

６．休講

・講師の都合等で休講となる場合があります。休講が発生した場合は、Emailにて連絡します。また、補講を実施します。

７．レポートの提出

・講義終了後に、成績評価のためのレポート提出（任意）を受け付けます。期限は各講座によって異なるため、各講師の指示する日までに、指定の方法にてご提出ください。

８．その他、講座開講の要件

講座開始の１週間前（18:00）までに受講生が10名に満たない場合は、特別な理由がある場合を除いて開講しません。
講座が開講されない場合、当該課目の受講予定者にはEmailにて連絡し、納入済の受講料を返金します。

事務局問い合わせ受付時間

月～金曜日　10:00 ～ 17:00　※祝祭日を除く

受 講 規 定

（1）在籍年限は特に定めない。
（2）各年度の受講課目数は原則として制限しない。ただし、講座開始後の受講課目変更は原則として許可しない。
（3）１課目につき、出席回数が講義実施回数の２分の１以上であることを学期末及第とする。
（4）学期末の成績評価は、原則として提出されたレポートに基づいておこなう。成績は、Ａ,Ｂ,Ｃ,Ｄとし、Ｃ以上を及第とする。
（5）別途定める基準により、卒業認定された受講者には、本講座の卒業証書を授与する。当該受講生は、以後、随意の講義を担当講師の許可を得て無料で受講することができる。
（6）同一課目を２回以上受講した場合には、卒業の際、その最高点をもって当該課目の成績とする。
（7）６年連続して出席率が２分の１以上の課目がない場合は除籍する。但し、休学期間は算入しない。
（8）休学期間は最長連続６年とする（休学手続きは、予め事務局に備付けの用紙を用いて行うこと）。
（9）通年講座で開講後受講回数10回以下で退学することが予め判っている者、ならびに10月以降の受講開始を希望する場合は、担当講師の許可を得て受講を認める。その際の受講料の半額に2,000円プラスしたものにする。すなわち、１課目受講につき、（受講料の半額＋税）＋2,000円とする。学生割引対象者も上記に準じる。
（10）当研究所の都合以外の理由で、定められた日時までに受講料納入手続きを完了しない場合、および受講手続き終了後の受講課目変更の場合には、特別手数料として１件につき1,000円申し受ける。
（11）講座開講後、既納入諸費用は受講講座不成立の場合を除き、原則として返金しない。

[服部四郎賞、理論言語学賞]
（1）服部四郎賞は、学術的に特に優れたと認められる論文（講座のレポート）に対して与えられる。副賞の奨学金は10万円とする。
（2）理論言語学賞は講座において成績優秀なものに与えられる。副賞の奨学金は４万円とし、受講者は毎年５人程度をめやすとする。ただし、同一受賞者は同一課目につき３回までとする。また、半期講座の場合の奨学金は２万円とする。学生割引対象者の副賞は、上記の半額とする。

〈卒業要件〉
下の規定を満たした者に本講座の卒業証書を授与する。

規定
①通年講義１課目１年を１単位、半年講義１課目半年を0.5単位として、合計12単位を優秀な成績をもって取得すること。
②上記12単位の中に、別表（P.8参照）に記すⅠ群からⅤ群の課目群について下に示す単位数を含むこと。
Ⅰ群から１単位以上。
Ⅱ群から２単位以上。
Ⅲ群から１単位以上。
Ⅳ群から１単位以上。
Ⅴ群から３単位以上。
「優秀な成績」の基準および、個々の単位の認定の詳細に関しては運営委員会で決定する。ただし、上記は2012年度以降に入学した者に対して適用するものであり、2011年度以前に入学した者については別途これを定める。なお、卒業者は本講座の講義を、担当講師の許可を得て、無料で聴講することができる。

〈証明書発行手数料〉
在籍証明書、単位取得証明書、卒業証明書各１通につき1,000円。

講・座・紹・介

	講義カテゴリー	講義題目（担当者）
Ⅰ群	言語学概論	前期／西村義樹他４名・後期／髙橋将一他４名
	言語学入門	
Ⅱ群	音声学	調音音声学（中川裕）・実験音声学（田嶋圭一）
	音韻論	日英対照音韻論（窪薗晴夫）
	形態論・語形成論	
	統語論	
	意味論	意味論の基礎（酒井智宏）
	語用論	語用論の基礎（松井智子）
Ⅲ群	生成文法入門	生成文法Ⅰ 生成統語論入門（平岩健）
	生成文法Ⅱ	生成文法Ⅱ 生成文法の基本的な概念について（宮川繁）
	生成文法Ⅲ	生成文法Ⅲ シェアリングの統語論（髙橋将一）
Ⅳ群	認知言語学入門	認知言語学Ⅰ 基礎から応用まで（大堀壽夫）
	認知言語学Ⅱ	認知言語学Ⅱ Langacker を読む（西村義樹）
	認知言語学Ⅲ	認知言語学Ⅲ『「する」と「なる」の言語学』とその周辺（池上嘉彦）
Ⅴ群	社会言語学	ポスト標準語化時代の日本語を探る（朝日祥之）
	史的言語学	歴史比較言語学入門（吉田和彦）
	言語心理学	人間の言語処理（広瀬友紀）
	日本語文法理論	日本語文法理論Ⅰ 日本語受身文研究　学説史の検討から（川村大）
		日本語文法理論Ⅱ コミュニケーションの中の日本語文法（定延利之）
		日本語文法理論Ⅲ 対照研究と日本語（井上優）
	言語学特殊講義	ヴォイスの言語類型論（長屋尚典）
	言語学特殊研究	

理論言語学講座は、2025年度も、広い研究領域について数多くの課目を開講しました。各課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体について鳥瞰いたします。p8の表のⅠ～Ⅴ群の区分は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。2025年度は全体で、前期と後期各８課目、通年２課目、夏期集中２課目の計20の課目を用意しました。Ⅰ群の課目は、言語学を初めて学ばれる方や、言語研究の諸分野を万遍なく学びたいという方向けに開講するもので、今年度は言語学概論（前期＋後期）を設定しました。言語学概論は10名の講師がそれぞれ専門の分野を２回ずつ担当するリレー形式の講義です。前期と後期の半期科目として設定されていますが、言語研究の全体像をつかみたい方には両期の受講をお薦めします。

Ⅱ群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」に「調音音声学」と「実験音声学」（ともに前期）の２課目を設定しました。「調音音声学」の授業では国際音声記号(IPA)を用いた調音訓練を通じて、音声学の基礎を習得することを目指し、「実験音声学」の授業では音声分析ソフトPraatを使った実習を中心に，人間の話し言葉の特徴を客観的に捉える手法を実践的に学びます。「音韻論」（後期）では、一般言語学の視点から日本語と英語の音韻構造の異同を考察します。「意味論」（後期）では第一線の研究者が書いた論文を読みながら、どの立場に立つにせよ意味/概念について最低限心得ておきたい問題をじっくり考え、「語用論」（後期）では、コミュニケーションの失敗がなぜ起こってしまうのか、説明します。
現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流がありますが、これらを学ぶのがⅢ群とⅣ群の課目です。Ⅲ群の生成文法については「生成文法Ⅰ」（通年）と「生成文法Ⅱ」（前期）、「生成文法Ⅲ」（後期）の３課目を設定しました。Ⅰでは生成文法理論に基づく研究プログラムの基本的概念及びヒトに備わる統語メカニズムと構造分析を基礎から学び、Ⅱでは生成文法の基本的な概念を取り上げ、Ⅲでは構造的・意味的観点から考えると、ある要素が二つの位置で表出することが期待されますが、実際には一つの位置にしか表出しない現象について議論します。

Ⅳ群の認知言語学にも３課目用意しました。「認知言語学Ⅰ」（前期）では、認知言語学の初期からの主要トピックを取り上げ、基本的な考え方をわかりやすく説明し、「認知言語学Ⅱ」（後期）では、言語学の根本問題に対する認知文法 (cognitive grammar) の考え方を多角的に検討し、「認知言語学Ⅲ」(通年）では、「日本語とはどのような言語か」という問題との取り組みを、現段階の知見を踏まえて、さらに確かなものにしようと試みます。

Ⅴ群に属する講座として７つの課目を用意いたしました。「社会言語学」(後期）では、言葉のバリエーションをめぐる考え方とその研究法に関する説明をわかりやすく行います。「歴史言語学」（前期）では言語の変化を明らかにするうえで有効ないくつかの方法論について解説したあと、その方法論を諸言語のデータに適用しながら、実際の分析を行います。「言語心理学」（夏期集中）では人間が音声・語・構文などの情報をリアルタイムに処理するしくみについて扱い、「言語学特殊講義（言語類型論）」（夏期集中）ではヴォイス現象について最新の言語類型論的研究をもとに俯瞰的な理解を得ることを目指します。

Ⅴ群にはまた、日本語の文法を考察する３つの課目を設定しました。「日本語文法理論Ⅰ」（前期）では、受身文の研究史を見直し、日本語受身文について考えるべきことは何かについて考えます。「日本語文法理論Ⅱ」（前期）では、コミュニケーションの現場に根ざした文法システムについてお話しします。「日本語文法理論Ⅲ」（後期）では、日本語と中国語、日本語と韓国語の対照研究について紹介しながら、対照研究のものの見方・考え方、個別言語研究・通言語的研究との関係、対照研究をおこなう際に生ずる問題などについてお話しします。

運営委員長 西村 義樹

2025 年度　講座時間割

● 前期 5 月 12 日～　　10 週間（祝祭日は開講しません）

時　間	月	火	水
19:00 ～ 20:40 （100分）	生成文法Ⅰ **平岩健**	認知言語学Ⅲ **池上嘉彦**	認知言語学Ⅰ **大堀壽夫**
	調音音声学 **中川裕**	日本語文法理論Ⅰ **川村大**	日本語文法理論Ⅱ **定延利之**

時　間	木	金	**夏期集中**
19:00 ～ 20:40 （100分）	実験音声学 **田嶋圭一**	言語学概論	言語類型論 **長屋尚典** 8/8，9，10
	生成文法Ⅱ **宮川繁**	史的言語学 **吉田和彦**	言語心理学 **広瀬友紀** 8/15、16、17

● 後期 9 月 29 日～　　10 週間（祝祭日は開講しません）

時　間	月	火	水
19:00 ～ 20:40 （100分）	生成文法Ⅰ **平岩健**	認知言語学Ⅲ **池上嘉彦**	意味論の基礎 **酒井智宏**
	生成文法Ⅲ **髙橋将一**	語用論の基礎 **松井智子**	日本語文法理論Ⅲ **井上優**

時　間	木	金	
19:00 ～ 20:40 （100分）	音韻論 **窪薗晴夫**	言語学概論	●前期ガイダンス 4 月 19 日（土） 10：00 ～ 12：15 ●後期ガイダンス 9 月 13 日（土） 10：00 ～ 11：15
	社会言語学 **朝日祥之**	認知言語学Ⅱ **西村義樹**	●春期講座 4 月 12、13 日

※ 1 日（19：00 － 20：40）に受講できるのは 1 課目です。

言語学概論　担当者および担当日

前期	認知言語学	西村義樹	5/16、23
	日本語文法理論	川村大	5/30、6/6
	史的言語学	堀田隆一	6/13、20
	言語心理学	杉崎鉱司	6/27、7/4
	言語類型論	長屋尚典	7/11、18
後期	音韻論	窪薗晴夫	10/3、10
	形態論	長野明子	10/17、24
	意味論・語用論	酒井智宏	10/31、11/7
	生成文法	髙橋将一	11/14、21
	社会言語学	嶋田珠巳	11/28、12/5

春期講座のご案内

二日間で、受講者に現代言語学の主要な研究領域やアプローチを紹介し、魅力ある言語学の世界へ誘うことを目的としています。2025年度理論言語学講座の担当講師による講義で編成していますので、理論言語学講座を検討中の方はこの講座を受講することをお勧めしています。詳細は研究所ホームページをご覧ください。

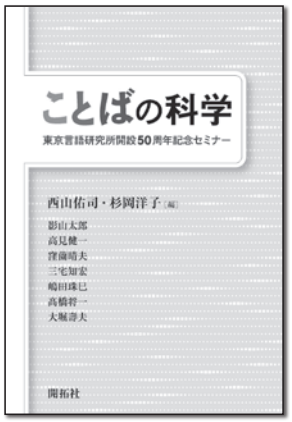
課　目（講師）		
〈1日目〉 4月12日（土）	1限	日本語文法理論　発話の現場に根ざした文法（定延利之）
		言語類型論　言葉のフィールドワーク入門（長屋尚典）
	2限	社会言語学　社会言語学への入門（朝日祥之）
		認知言語学　フレーム・スキーマ・メタファー（大堀壽夫）
	3限	実験音声学（田嶋圭一）
		意味論　意味論への招待（酒井智宏）
	4限	音韻論　音楽と言葉の関係（窪薗晴夫）
		生成文法Ⅰ（平岩健）
〈2日目〉 4月13日（日）	1限	史的言語学　同系性の原理と規則性の原理（吉田和彦）
		生成文法Ⅱ（宮川繁）
	2限	認知言語学　同族目的・生成の動詞・「なる」（池上嘉彦）
		語用論　誤解が生まれてしまうのはなぜ？（松井智子）
	3限	調音音声学（中川裕）
		日本語文法理論　対照研究と日本語（井上優）
	4限	言語心理学　言語の理解を科学する（広瀬友紀）

・1限（10：00～11：20）
・2限（11：40～13：00）
・3限（14：00～15：20）
・4限（15：40～17：00）

書籍のご案内

「ことばの科学」

西山佑司・杉岡洋子〔編〕
定価：本体 2,000 円＋税



服部四郎博士の構想により、1966年に開設された東京言語研究所。2016年に開催された開設50周年記念ｾﾐﾅｰを元に編纂しました。ことばの科学が切り開く豊かで刺激的な世界へ読者を誘い、ことばを科学することの喜びと重要性を伝えます。

第Ⅰ部 日本語はどういう言語か ――内から見た日本語，外から見た日本語――

影山太郎　第１章 複合語の小宇宙から日本語文法の大宇宙を探る
1. はじめに　2. 動詞領域と名詞領域に見られる膠着性の非対称性
3. 時制付きの複合動詞　4. 時制を伴わない複合述語
5. 定型と非定型の中間的な複合述語　6. まとめ

高見健一　第２章 話し手考慮の重要性と日本語 ――「～ている」と「～てある」表現を中心に――
1. はじめに　2.「～ている」構文　3.「～てある」構文　4. 結び

第Ⅱ部 ことばの科学 ――将来への課題――

窪薗晴夫　第３章 音韻論の課題 ――類型論的観点から見た日本語の音韻構造――
1. はじめに　2. 母音の有標性　3. 子音の有標性　4. 音節とモーラ　5. 音節構造の有標性

三宅知宏　第４章 日本語の課題 ――「記述」と「理論」の壁を越えて――
1. はじめに　2. 現状と今後の方策　3. 事例　4. おわりに

嶋田珠巳　第５章 社会言語学の課題 ――ことばの選択を考える――
1. はじめに　2. ことばの選択　3. ことばの選択をめぐる社会言語学の話題
4. アイルランドの事例にみる「ことばの選択」　5.「〈社会言語学〉将来への課題」を視野に

髙橋将一　第６章 生成文法の課題 ――人間の言語機能の解明に向けて――
1. はじめに　2. 併合とその制約　3. 節減理論への経験的挑戦　4. おわりに

大堀壽夫　第７章 認知言語学の課題 ――文化解釈の沃野――
1. 序論　2. 認知言語学の過去・現在・未来　3 解釈的言語学　4. 文化のキーワード　5. 結論

理論言語学
講座概要

※各講義題目の右脇の表示は、その講義題目がどの講義カテゴリーに属するかを示すものです。講義カテゴリーは受講生が本理論言語学講座の卒業要件を満たすかどうかを判定する際に用いられます。

通年講座（前期と後期でセットの講座）
時間 :19:00-20:40（100 分）
前期 2025 年 5 月 12 日～ 全 10 回
後期 2025 年 9 月 29 日～ 全 10 回（祝祭日の講義はありません）

ヒトに備わる言語能力の統語メカニズムを基礎から学びます

生成文法 I　生成統語論入門　生成文法入門　㊊

この講義では生成文法理論に基づく研究プログラムの基本的概念及びヒトに備わる統語メカニズムと構造分析を基礎から学びます。特に日本語と英語の統語構造の共通点と違いを詳細に観察しながら、自然言語の分析では構造という概念が必須であり、それにより様々な現象に説明がつくことをデータに基づいて学んで行きます。

教科書は渡辺明著「生成文法」（東京大学出版）を使用し、教科書の内容に沿って講義を進めます。1 年かけて取り扱うトピックは移動現象（主語やWh 句やその他）、名詞句や動詞句、従属節の構造と句構造の一般理論などです。一方で、講義の中で毎回構造を書く練習をたくさんしてもらいます。そして受講者の解答をカメラで共有しながらどういう間違いをしてしまうか確認しながら進めていきます。基礎からじっくり解説しますので、生成文法理論に興味がある方だけでなく、自分が専門的に研究したい分野とは異なるけど生成文法理論における分析方法や基本的概念などを理解しておきたいという方にもおすすめできる内容になっています。

平岩　健
ひらいわ　けん

オンライン

明治学院大学文学部英文学科教授

専門は理論言語学，統語論，フィールド言語学に基づく理論研究．Ph.D. in Linguistics (MIT. 2005). New York University 言語学科でのポスドクの後，University of Victoria 言語学科で教鞭を執り現職．The origin and architecture of existential indeterminates in Okinawan (Proc. of LSA, 2020), Internally headed relative clause. (Wiley Blackwell Companion to Syntax, 2016), The faculty of language integrates the two core systems of number (Frontiers in Psychology: Language Science, 2016) など．

テキスト・参考文献　渡辺明著「生成文法」（東京大学出版 2009）
この課目で前提とされる知識など　基礎から学びますので統語論の前提知識は不要です。概論レベルの入門的な言語学の知識はあるとよりよいです。
講義形態　講義形式ですが、講義内で多く練習問題を取り入れ受講者の解答や疑問を見て説明しながら進めていきます。

現時点の認知言語学から検討、評価、そして更なる展開の可能性を探ります

認知言語学 III　『「する」と「なる」の言語学』とその周辺－共時的、通時的に、そして学際的にも　認知言語学 火

外国語と多かれ少なかれ苦労してつき合った経験のある人なら誰しも、勉強して身につけた外国語と比べて、いつの間にか自然と身についた自分の母語とは一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはずです。『「する」と「なる」の言語学―言語と文化のタイポロジーへの試論』と題された書物（大修館書店、1981）も、そのような問いかけから生まれたもの、現在まで18刷を重ね、今では認知言語学的な先駆的試みと受けとめられているようです。

「認知言語学III」は分類項目の名称で、特に高度な理論を紹介するといったものではありません。上記の「日本語とはどのような言語か」という問題との取り組みを、現段階の知見を踏まえて、さらに確かなものにしようとする試みです。とりあげる話題については、基本的な参照資料のほかにも、そこからの新しい展開の可能性を含むような問題への言及も加えます。（例えば、丸山真男(1972)から読みとれる＜生成＞の自・他動詞から成る系列、名詞の複数表示から芭蕉の古池の句の英訳を経て、英語俳句、子供の俳句、そして桑原武夫の＜第二芸術論＞、赤人の和歌浦の一首のAIによる英訳の評価、英文学史上での〈現代語訳〉の試み、など。）

池上　嘉彦
いけがみ　よしひこ

オンライン

東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

東京大学で英語英文学（B.A., M.A.）、Yale大学大学院で言語学（M.Phil., Ph.D.）を専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究センター、などで客員教授、ハンブルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。日本認知言語学会名誉会長、日本記号学会名誉会員。
著書：『英詩の文法』（研究社）、『意味論』、『「する」と「なる」の言語学』（大修館書店）、『ことばの詩学』、『記号論への招待』（岩波書店）、『詩学と文化記号論』（講談社）、『＜英文法＞を考える』、『日本語と日本語論』、『ふしぎなことば・ことばのふしぎ』（筑摩書房）、『自然と文化の記号論』、『英語の感覚・日本語の感覚』、『意味の世界（改版）』（NHK出版）、など。編著書：The Empire of Signs: Semiotic Essays on Japanese Culture (John Benjamins, Amsterdam)、共編著書：『自然な日本語を教えるために―認知言語学をふまえて』、『「ナル的表現」をめぐる通言語的研究』（ひつじ書房）、など

この課目で前提とされる知識など　日本語母語話者には母語について改めて考察する試みの魅力を体験してほしい。非母語話者でも、日本語への特別な関心とある程度の習熟度があれば歓迎。認知言語学の知識については、必要な場合はその都度説明します。

講義形態　ハンドアウトやパワーポイントファイルを参照しながらの講義形式が中心となります。

前期講座（半期単位で受講可能講座）
2025年5月12日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
時間:19:00-20:40（100分）

音声学的な知識と技能の基礎を習得する

調音音声学演習　音声学　㊊

中川　裕（なかがわ　ひろし）
東京外国語大学総合国際学研究院教授
PhD (Linguistics)
音声学、音韻論、コイサン言語学
主要業績は下記のページをご覧ください。
https://researchmap.jp/nhirosi

この授業では、国際音声記号(IPA)を用いた調音訓練を通じて、音声学の基礎を習得することを目指します。多様な言語音が音声器官によってどのように作り出されるのかを学び、それらを聞き分け、発音する技能を身につけます。授業では解説を受動的に聞くだけでなく、IPA記号の手本発音を模倣し、教師からのフィードバック（正誤判断や発音補正の方法）を受けることで、調音の内省能力や聞き分け能力を向上させます。

授業では、耳慣れない言語音を扱うだけでなく、馴染みのある音の微細な違いがどのように表記されるかについても学びます。IPA用語と弁別素性の用語の対応関係を理解することも目標の一つです。また、発音練習を助けるために、音響的特性を視覚化する方法を無料アプリケーションPraatを使って習得します。必要に応じて、パラトグラフィー、X線撮影、MRI撮像などによる調音資料も活用します。

テキスト・参考文献 オリジナル講義資料を適宜配布します。
この科目で前提とされる知識など 講座開始に先立って、www.praat.org のウェブページの左上から、自分の OS に合うバージョンの Praat をダウンロードして、インストールし、起動の確認まで独力でできること。
講義形態 模倣発音の実習を交えながら講義を進めます。

生成文法 I　生成文法入門　㊋

平岩　健（ひらいわ　けん）
明治学院大学教授

内容は通年講座を参照

研究史の検討を通して受身文研究の最前線へ

日本語文法理論 I　日本語受身文研究 学説史の検討から　日本語文法理論　㊋

川村　大（かわむら　ふとし）
東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授
国語学（文法、文法論）。
1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。
「受身・自発・可能・尊敬—動詞ラレル形の世界—」（尾上圭介編『朝倉日本語講座6　文法Ⅱ』朝倉書店　2004）「受身文研究の二つの立場—研究史の構造的理解のために—」（『国語と国文学』88巻9号、2011）、『ラル形述語文の研究』（くろしお出版、2012）「動詞ラル形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」（『国語と国文学』89巻11号 2012）など

個別の文法現象についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってもらうことを目指します。今年度は、日本語の受身文を取り上げます。受身文については既に語りつくされた感がありますが、様々な理論的立場からの様々な論点に関する議論が錯綜して、その全体像を俯瞰することが非常に困難です。受身文の研究史を見直し、何がどういう問題関心から論じられてきたかを整理しつつ、日本語受身文について考えるべきことは何かについて考えてみたいと思います。受身文研究と言えば構文をめぐる理論的研究、あるいは教育的関心からの対照研究が目下主流かと思いますが、この講義では、現下の学界ではあまり注目されない「意味」の問題に注目して研究史を見直していく予定です。実は、伝統的な日本語研究では受身文の表す「意味」に注目してきた歴史があり、そしてこの観点こそが日本語受身文を考える際には本質的な観点だと私は理解しています。またこの講義は、間接的には通言語学的・類型論的研究と個別言語研究との緊張関係や、史的研究と現代語研究との連携について語ることになるかと思います。この問題に関心のある方の参加をお待ちしています。

テキスト・参考文献 川村大　2004 「受身・自発・可能・尊敬—動詞ラレル形の世界—」尾上圭介編『朝倉日本語講座6　文法Ⅱ』朝倉書店　川村大　2012 『ラル形述語文の研究』くろしお出版　など
この課目で前提とされる知識など 日本語学・言語学の入門程度の知識が必要です。古文の知識は前提としません。
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

認知言語学Ⅲ　認知言語学　火

内容は通年講座を参照

池上　嘉彦（いけがみ　よしひこ）

東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

ことばが編み上げる「認知」の世界を探る

認知言語学Ⅰ　基礎から応用まで　認知言語学　水

認知言語学――私たちがことばを通じて意味の世界を構築し、互いに関わり合うプロセスの研究――について、導入から新しいケーススタディまでをカバーする予定です。学期の前半では、認知言語学の初期からの主要トピックを取り上げ、基本的な考え方をわかりやすく説明する予定です。同時に、私たちの「現在地」からの再検討も随時行っていきます。取り上げるトピックは、意味の部分性、フレーム意味論、プロタイプとカテゴリー化、メタファーとメトニミーを予定しています。学期の後半では特に構文理論（Construction Grammar）に焦点をあて、テイラー『メンタル・コーパス』やヒルパート『構文理論』を参照しつつ、できるだけ多くの具体例を取り上げて考察します。項構造構文などのよく知られた例だけでなく、会話データにおける創発的な構文、情報構造、そして構文彙（constructicon）の設計なども取り上げる予定です。談話言語学の先端の研究者をゲストスピーカーとしてお招きすることも計画中です。これから認知言語学を学びたい人はもちろん、知識をアップデートしたいと思う人も、共に考え、新しい考えを生み出す機会としていければと思います。

大堀　壽夫（おおほり　としお）

慶應義塾大学環境情報学部教授

カリフォルニア大学バークレー校言語学科より博士号取得（1992年）。慶應義塾大学商学部、東京大学教養学部を経て、慶應義塾大学環境情報学部教授。専攻は意味論、機能的類型論（複文構造の類型と通時相）、談話分析。

論文：「類像性」（秋田喜美と共著）（池上嘉彦・山梨正明（編）2020.『認知言語学Ⅰ』）. ひつじ書房. "The structure and semantics of complex sentences"（Bentley, D. et al.（eds.）2023. The Cambridge Handbook of Role and Reference Grammar）. Cambridge University Press. 「語彙意味論の冒険」（宮代康丈・山本薫（編）2023.『言語文化とコミュニケーション』）. 慶應義塾大学出版会.

共訳：リンゼイ・ウェイリー. 2006.『言語類型論入門』. 岩波書店. クリス・フリス. 2009.『心をつくる：脳が生み出す心の世界』. 岩波書店. マイケル・トマセロ（編）2011.『認知・機能言語学：言語構造への10のアプローチ』. 研究社.

https://coglxremote.blogspot.com/

テキスト・参考文献 主にレジュメとスライドを使います。講義全体を通じて単一のテキストを利用する予定はありませんが、以下の本は繰り返し参照予定です。特に、ヒルパートの本は多用する予定。大堀壽夫. 2002.『認知言語学』. 東京大学出版会. ジョン・テイラー. 2017.『メンタル・コーパス』. くろしお出版. マーティン・ヒルパート. 2023.『構文理論―基礎から応用へ』. 開拓社.

この課目で前提とされる知識など 特に必要ありません。

講義形態 講義を中心としますが、オンラインの利点を生かし、アンケートやミニエクササイズなどの活動も取り入れます。また、なじみのない用語等については、臆せず質問してください。一人がわからないことは他の人もわからないことが多いものです。

これまでほとんど研究されていない、日常のことばの新しい面について一緒に考えましょう

日本語文法理論Ⅱ　コミュニケーションの中の日本語文法　日本語文法理論　水

車が動かない原因を発見すれば、「あ、サイドブレーキかかってる！」と、車内の誰でも言えます。しかし「あ、サイドブレーキかかってた！」は、運転座席の者にほぼ限られます。なぜでしょう？／水槽があり、見ると金魚の死骸が浮いています。この時「あ、金魚死んでる」は誰でも言えます。しかし「あ、金魚死んだ」は、飼い主など、生前の金魚を見ていた者に限られます。なぜでしょう？／「あの人の話、長くない？」と訊かれて、「だ」と答えるのは不自然です。しかし「だな」「だよね」は自然です。なぜでしょう？／松本駅に到着した列車の車内アナウンス「まつもと一」は音調が平坦です。行方不明の松本氏を捜して、森の中を進みながら言う「まつもと一」も平坦です。しかし目の前の松本氏には「まつもとぉ」と下降調で呼びかけられます。なぜでしょう？／「3時まで仕事する」と言えば、3時は仕事の終期で、2時に仕事を終えたら怒られます。しかし「3時までの仕事」なら、3時は仕事の期限で、頑張れば2時に終えられるかもしれません。なぜでしょう？／アンケート調査の結果を踏まえて、コミュニケーションの現場に根ざした文法システムについてお話しする予定です。

テキスト・参考文献 ハンドアウトを配布します。参考文献は適宜紹介します。
この課目で前提とされる知識など 特にありません。
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります

定延　利之
さだのぶ　としゆき

オンライン

京都大学大学院文学研究科教授

軽視・無視されがちな「周辺的」な現象の観察を通じて，言語学の前提を再検討しています。主な単著は『やわらかい文法』（教養検定会議，2024），『コミュニケーションと言語におけるキャラ』（三省堂，2020），『文節の文法』（大修館書店，2019），『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房，2016），『煩悩の文法』（凡人社，2016，筑摩書房，2008），『日本語社会 のぞきキャラくり』（三省堂，2011），『日本語不思議図鑑』（大修館書店，2006），『ささやく恋人，りきむレポーター』（岩波書店，2005），『認知言語論』（大修館書店，2000）。最近の主論文に「発話への文法的接近」（『国語と国文学』99 (5)，2022），“Is discourse made up of sentences?” (Journal of Japanese Linguistics, 37 (2), 2021）。

音声分析ソフトを使って話し言葉を客観的に捉える

実験音声学　音声学　木

本講義は実験音声学への導入として，Praatというフリーの音声分析ソフトを使った実習を中心に，人間の話し言葉の特徴を客観的に捉える手法を実践的に学ぶことを目的とします。Praatには様々な機能が備わっていますが，その中でも特に中核的な機能である音声の音響分析，ラベリング，音声合成，音声知覚実験，簡単なスクリプトなどについて，実際にPraatを操作しながら体験的に習得します。最終的には一通りの操作が自分でできるようになることを目指します。さらに，音声学の実験を行う上で心得ておくとよい事柄や，音響分析や知覚実験で得られたデータを分析するための基礎的な統計解析の手法などについても，可能な範囲で取り上げる予定です。

テキスト・参考文献 以下の書籍をテキストとして使用します。北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳（2017）『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』ひつじ書房.
この課目で前提とされる知識など Praatをインストールできる PC および基本的な PC スキルがあることを前提に講義を進めます。また，調音音声学の基礎知識があるとよいですが，必須ではありません。
講義形態 講義およびソフトを利用した実習を交えて進める予定です。

田嶋　圭一
たじま　けいいち

オンライン

法政大学文学部心理学科教授

1968年東京都生まれ。1998年米国インディアナ大学大学院にて言語学と認知科学の Ph.D. を取得。ATR 人間情報通信研究所客員研究員を経て，2003年より現職に就く。2012年度米国マサチューセッツ工科大学電子工学研究所客員研究員。専門は音声学，音韻論，心理言語学。母語および外国語の音声の知覚・産出・学習に関する研究に従事。著書・論文に，「日本人英語学習者の弱化母音の実現について―予備的コーパス調査―」（共著，開拓社『プロソディー研究の新展開』，2022），「音声学・音韻論が英語教育に与える示唆」（単著，開拓者『最新言語理論を英語教育に活用する』，2012年），“Training English listeners to perceive phonemic length contrasts in Japanese”（共著，Journal of the Acoustical Society of America，2008）などがある。

生成文法の基本的な概念について

生成文法Ⅱ　生成文法　㊍

　この授業では、以下のような生成文法の基本的な概念を取り上げます。

- 人間の言語の独自性 — チョムスキー階層と構文
- 移動（movement）の原点 (On Wh-movement（Chomsky 1977) など)
- 移動の種類、制約、フェーズ理論の起源
- オプショナル移動
- アグリーメント（一致）I : 基本的な性質、cyclic agreement など
- アグリーメント（一致）II : アプリカティブ　アグリーメント
- 能格言語(Ergative languages)

テキスト・参考文献 リーディングを配ります。
この課目で前提とされる知識など 基本的な構文論の知識を前提とします。（例えば生成文法Iに相当する知識）
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

宮川　繁
みやがわ　しげる

オンライン

マサチューセッツ工科大学名誉教授

MIT 言語学名誉教授、サンパウロ大学バイオサイエンス客員教授、成蹊大学特別顧問

著書：
Why Agree? Why Move? Linguistic Inquiry Monograph, MIT Press, 2010
Case, Argument Structure, and Word Order. Routledge Leading Linguists Series, 2012
Agreement Beyond Phi. Linguistic Inquiry Monograph, MIT Press, 2017
Syntax in the Treetops. Linguistic Inquiry Monograph, MIT Press, 2022
www.shigerumiyagawa.com

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論 金

「言語学概論」は前期と後期の２期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が２回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説する課目です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお薦めします。

今期は認知言語学、日本語文法理論、史的言語学、言語心理学、言語類型論の５分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は５名の講師が一題ずつ出すテーマから１つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお薦めの授業です。

講義形態 講義形式で進めます。

西村　義樹
にしむら　よしき
東京大学教授

オンライン

川村　大
かわむら　ふとし
東京外国語大学教授

長屋　尚典
ながや　なおのり
東京大学准教授

プロフィール下記以外は各講師の講義欄参照

堀田　隆一
ほった　りゅういち

慶應義塾大学文学研究科英米文学専攻教授

PhD (Glasgow University. 2005)
主要出版物：『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』（研究社、2016 年）、『英語史で解きほぐす英語の誤解―納得して英語を学ぶために』（中央大学出版部、2011 年）、『スペリングの英語史』（翻訳）（早川書房、2017 年）、The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English (Tokyo: Hituzi Syobo, 2009)。英語史の話題を日々提供する「hellog ～英語史ブログ」(http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/) と Voicy「英語の語源が身につくラジオ (heldio)」(https://voicy.jp/channel/1950) を継続中。

杉崎　鉱司
すぎさき　こうじ

関西学院大学文学部教授

生成文法理論に基づく母語獲得研究を専門にしています。主に、日本語や英語を対象に、文の構造や意味にかかわる性質の獲得について調査を行っています。2003 年コネチカット大学言語学科博士課程修了 (Ph.D. in Linguistics)。主要著書・論文に『はじめての言語獲得―普遍文法に基づくアプローチ』(2015 年 岩波書店 日本英語学会賞受賞)『言語研究の世界：生成文法からのアプローチ 』（共編・共著 2022 年 研究社）、“On the Acquisition of Prepositions and Particles”(2016 年 The Oxford Handbook of Developmental Linguistics, OUP) など。

言語変化のメカニズムと記録以前の言語の復元について考える

歴史比較言語学入門

史的言語学 金

この授業では、言語の変化を明らかにするうえで有効ないくつかの方法論（文献資料の扱い方、音変化の基本的なメカニズム、比較方法、内的再建法、生成文法からのアプローチ、類推の原理）について解説したあと、その方法論を諸言語のデータに適用しながら、実際の分析を行います。この分析作業により、受講生のみなさんの問題発見能力と問題解決能力が涵養されます。オンラインの授業ですが、できるだけ対話の時間を多くとり、分析が正しい方向に向かうように助言します。分析結果そのものよりも、根拠に裏付けられた考え方を重視し、言語分析の面白さを体験します。主要なトピックとして、つぎのようなものがあります。

・言語は変化する
・話し手のいない文献資料から、どのようにして言語情報を引き出すか
・音変化のメカニズム
・記録以前の言語の復元（１）―比較方法
・記録以前の言語の復元（２）―内的再建法
・類推の役割
・生成文法からみた言語の変化
・比較言語学の歴史とその今日的意義

吉田　和彦
よしだ　かずひこ

オンライン

京都産業大学外国学部客員教授

同ことばの科学研究センター長。京都大学名誉教授。日本学士院会員。コーネル大学Ph.D.（言語学）。言葉にかかわる問題全般に興味がありますが、特に言葉の変化に興味を寄せています。印欧系諸言語は東は中央アジア、西はアイルランドにいたる広大な地域で話されていました。それらの言語が分岐する前の印欧祖語の再建および分派諸言語の後の変化という問題に取り組んでいます。そして紀元前二千年紀に遡る古い文献記録を持つヒッタイト語などの古代アナトリア諸語が、この問題の解明に向けて重要な鍵を担っているため、アナトリア諸語を中心に据えた比較言語学的研究を世界の研究者仲間と協働しながら進めています。みなさんの関心を広げるとともに、ことばの変化に関心がある方の研究テーマが実を結ぶように、ともに学び合いたいと思います。

テキスト・参考文献 毎回プリントを用意しますが、必要に応じて参考文献を指示します。
この課目で前提とされる知識など 音声学と音韻論の基礎知識があることが望ましいです。歴史言語学に関する予備知識は必要ではありません。余裕があれば吉田和彦『言葉を復元する－比較言語学の世界』（ちくま学芸文庫）を読んでおいてください。
講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

後期講座（半期単位で受講可能な講座）
2025年9月29日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）
時間:19:00-20:40(100分)

シェアリング現象の分析的可能性を探究する

生成文法Ⅲ　シェアリングの統語論　生成文法　月

本講義では、構造的・意味的観点から考えると、ある要素が二つの位置で表出することが期待されますが、実際には一つの位置にしか表出しない現象、つまり一つの要素が二つの位置でシェアされていると思われる現象について議論します。具体的な現象としては、across-the-board movement、determiner sharing、right node raising、wh-coordinationを取り上げる予定です。例えば、across-the-board movementでは、wh句は一つしか表出しませんが、そのwh句の基底生成位置は、二つあります。right node raisingも、同様の性質を有しています。また、determiner sharingは、主にgappingで観察される現象です。gappingを伴う等位接続構造において、決定詞は第一等位項にしか現れていなくても、あたかもその決定詞が第二等位項にもあるかのような解釈が可能です。これらの現象について、英語やドイツ語などのゲルマン諸語のデータを観察し、シェアリング現象に対する分析的可能性を探究します。

髙橋　将一（たかはし　しょういち）　オンライン
青山学院大学文学部英米文学科教授
研究分野は、統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス。
2006年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph.D.
主要論文: The hidden side of clausal complements. Natural Language & Linguistic Theory 28:343-380、More than two quantifiers. Natural Language Semantics 14:57-101 など。

テキスト・参考文献　テキストは、使用しません。講義で取り上げる論文については、初回の講義でお知らせします。

この課目で前提とされる知識など　生成文法の基礎的な知識を前提としますが、受講者のお持ちの知識に応じて、講義を工夫していきます。また、内容などについてはっきりしないことがある場合は、積極的に質問していただきたいです。

講義形態　ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

生成文法Ⅰ　生成統語論入門　生成文法入門　月

内容は通年講座を参照

平岩　健（ひらいわ　けん）　オンライン
明治学院大学教授

うまくコミュニケーションがとれないのはなぜ？

語用論の基礎　語用論　火

毎日の会話を通して、相手にうまく伝わらなかったなと思ったり、言い方を間違ったなと後悔したりしたことはありませんか。また後で振り返ってみると、相手が言ったことを誤解していたかもと思い当たることがあるかもしれません。語用論では、こうしたコミュニケーションの失敗がなぜ起こってしまうのか、説明しようとします。会話で使われる言葉の意味を解釈するとき、また会話の中で言葉になっていないメッセージを汲み取るとき、私たちは言葉の意味を解釈すると同時に、話し手の「意図」や「態度」といった、目には見えない心の状態を推し量ることになります。ただし、誰もが経験することですが、私たちにとって、相手の心を正確に読むことは難しく、誤解につながることも少なくありません。この講義では、関連性理論の考え方を学びながら、なぜ私たちのコミュニケーションにおいて誤解が生まれるのか、考察していきます。その際、コミュニケーション能力が発達途上の子どものケースや、コミュニケーションに生得的な困難さを抱える自閉スペクトラム症のケースなども参考にしながら、大人のコミュニケーションの問題を検討していきます。

テキスト・参考文献 松井智子　2013 「子どものうそ、大人の皮肉」岩波書店
この課目で前提とされる知識など 特にありません。
講義形態 講義に加え、ワークシートやグループセッションも予定しています。

松井　智子
まつい　ともこ
オンライン
中央大学文学部教授
ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部言語学科博士課程修了（PhD）。
著書にBridging and Relevance (John Benjamins, 2000, 市河賞)、『子どものうそ、大人の皮肉』（岩波書店2013年）、『ソーシャルブレインズ』（分担執筆、東京大学出版会、2009）、『ミス・コミュニケーション』（分担執筆、ナカニシヤ、2011）などがある。

認知言語学Ⅲ　認知言語学　火

内容は通年講座を参照

池上　嘉彦
いけがみ　よしひこ
オンライン
東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

「意味」の意味を掘り下げる

意味論の基礎　意味論　水

意味論は理論言語学の中で一番とっつきやすい分野に見えて実は一番とっつきにくい分野です。その理由の一つは、形式意味論、語彙意味論、認知意味論、etc.という分野があるのに対して、たんなる「意味論」という分野が存在しないことにあります。これは「意味」という語が本質的に多義であることを反映しています。意味を考えるためには「意味」の意味も考えなければなりません。「英語の‘cat’は猫という意味を表す」の「意味」を「概念」に置き換えても何も変わらないように見えます。「意味」と「概念」は同じ意味/概念を表すのでしょうか。「概念」の概念についても考える必要がありそうです。

「意味」と「概念」がこれほど多義であるにもかかわらず、私たちはふだん猫について会話を交わすのにさほど苦労しません。これは私たちが「猫」の意味/概念を共有していることを意味するのでしょうか。この講義では、第一線の研究者が書いた論文を読みながら、どの立場に立つにせよ意味/概念について最低限心得ておきたい問題をじっくり考えてみましょう。継続して受講する方にとっても今回から新たに受講する方にとっても等しく有意義な講義となるように努めます。

テキスト・参考文献 プリントを配布します。参考文献は、授業中に紹介します。
この課目で前提とされる知識など 予備知識は必要ありません。
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります

酒井　智宏（さかい　ともひろ）　オンライン

早稲田大学文学学術院教授

意味論、語用論
2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）
2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage
主要著作：Semantic Externalism and Cognitive Linguistics（単著、早稲田大学出版部、2024）

日本語を相対的な観点から見直す

日本語文法理論Ⅲ　対照研究と日本語　日本語文法理論　水

言語の対照研究は、複数の言語を「比べて考える」ことにより、それぞれの特性を浮かび上がらせ、最終的にそれぞれを「相対化する（公平に見る）視点」を見出す研究です。この講義では、これまで井上がおこなった日本語と中国語、日本語と韓国語の対照研究について紹介しながら、対照研究のものの見方·考え方、個別言語研究・通言語的研究との関係、対照研究をおこなう際に生ずる問題などについてお話しします。扱う現象は主にテンス・アスペクト・モダリティおよび言語行動に関する現象ですが、それ以外の現象も扱います。特に日本語の感覚からすると不思議な感じがする中国語・韓国語の現象を重点的に取り上げます。英語との対照で言われることの多い日本語の特性を別の観点から見直すこともおこないます。全体を通じて、他言語と対照することにより日本語に対する理解が格段に深まること、そして、日本語について考えることが他言語について考えることにつながることをお伝えできればと思っています。

井上　優（いのうえ　まさる）　オンライン

日本大学文理学部国文学科教授

東京都立大学大学院人文科学研究科（国文学専攻）修士課程修了。
専門は現代日本語の文法・意味（主にテンス・アスペクト・モダリティ）ですが、中国語·韓国語との対照研究もやっています。母方言である富山方言の研究もやります。
著書に『日本語文法のしくみ』（2002年、研究社）、『シリーズ方言学2 方言の文法』（共著、2006年、岩波書店）、『相席で黙っていられるか―日中言語行動比較論―』（2013年、岩波書店）があります。
主な論文に「日本語と中国語の真偽疑問文」（共著、『国語学』184、1996年）、「テンス·アスペクトの比較対照―日本語・韓国語・中国語―」（共著、『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会、2002年）、「三層モデルから見た日本語と中国語の文形式の選択」（『比較・対照言語研究の新たな展開』開拓社、2022年）などがあります。

テキスト・参考文献 ハンドアウトを配布します。参考文献として『相席で黙っていられるか―日中言語行動比較論―』（岩波書店）をあげておきます。それ以外は適宜紹介します。
この課目で前提とされる知識など 特にありません。中国語・韓国語に関する知識も不要です。
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

音楽と言葉の関係を通じて日英語の音韻構造を探る

日英対照音韻論　音韻論　木

一般言語学の視点から日本語と英語の音韻構造の異同を考察します。前半（教科書第４章）は音楽と言葉の関係を、音符に歌詞を割り振る操作（テキストセッティング）の観点から分析し、日本語と英語が語の分節についてどのような共通点と相違点を示すか考察します。具体的にはHappy Birthday to Youの歌や野球の声援の分析を通じ、日本語と英語のテキストセッティングにどのような違いが生じるか、その違いがどのような言語学的理由から生じるのか検討します。

講義の後半（教科書第５章）では、英語などの強さアクセント言語に特徴的とされてきたリズム規則を出発点として、プロミネンス（強勢や高音調）の衝突を日英語がどのように回避しようとしているか比較してみます。またプロミネンスの概念をモーラレベルに拡張し、日本語が音韻的に強いモーラ（自立モーラ）の連続をどのように避けようとしているか考察します。この分析を通じ、赤ちゃん言葉や元号の選択（明治、大正、昭和、令和）など、これまで無関係とされてきた諸現象が「プロミネンスの衝突を避ける」という一般的な原理に還元できることを論じたいと思います。

テキスト・参考文献　窪薗晴夫 (2025)『一般言語学から見た日本語の音韻構造』第４～５章、くろしお出版。
この課目で前提とされる知識など　言語学概論レベルの知識を前提とします。音韻論の基礎知識もあれば授業をより深く理解できますが必須ではありません。言葉と音楽の関係や対照言語学に関心のある人を特に歓迎します。
講義形態　講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

窪薗　晴夫（くぼぞの　はるお）　オンライン

国立国語研究所客員教授

専門は音韻論、音声学。1986年英国エジンバラ大学大学院（言語学）修了（Ph. D. 1988年）。南山大学、大阪外国語大学、神戸大学で教鞭を執った後、2010年より2022年まで国立国語研究所教授。一般言語学や言語類型論の視点から日本語の音韻構造と音韻構造の普遍性・多様性を研究している。主な著書に『語形成と音韻構造』『一般言語学から見た日本語のプロソディー』『一般言語学から見た日本語の語形成と音韻構造』（以上、くろしお出版）、『日本語の音声』『新語はこうして作られる』『アクセントの法則』『数字とことばの不思議な話』（以上、岩波書店）、『通じない日本語』（平凡社）、*Word and Sentence Prosody: The Endangered Dialect of Koshikijima Japanese*（De Gruyter Mouton）など。

ことばのバリエーションから新たな言語変化を見つける

社会言語学　ポスト標準語化時代の日本語を探る　社会言語学　木

日常生活でのやりとりに「ことば」は必須のもので、その使い方を意識したりしなかったりします。そのやりとりに潜む「ことば」のルールを見つけるのが社会言語学です。20世紀の日本語は標準語化の時代と言われます。これにより、多くの方言が消滅の危機に瀕することになりましたが、方言自体は今なお使われ続けています。つまり、方言と標準語を使い分ける時代になったのです。言語は基本的に変化するものです。つまり、方言にも標準語にも新たな変化が生じる可能性があります。また、渋谷語やネットスラングといった特定のグループに見られた言語にも新たな変化が生じる可能性もあります。

この授業では、言葉のバリエーションをめぐる考え方とその研究法に関する説明をわかりやすく行います。その上で標準語化（共通語化）研究の動向を整理し、今まさに生じている言語変化をその社会状況（地域社会、日本に居住する日本語以外の言語話者、SNSなど）を紹介します。それを受け、これらの変化が持つ社会言語学的意義を受講生たちと一緒に考えていきます。

テキスト・参考文献　教科書は使用せず、ハンドアウト（授業スライド）を配布します。
この課目で前提とされる知識など　特にありません。
講義形態　ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

朝日　祥之（あさひ　よしゆき）　オンライン

国立国語研究所研究系教授

博士（文学）大阪大学大学院
社会言語学、日本語学、変異理論
主要業績は下記のページをご覧ください。

https://researchmap.jp/ASAHI_Yoshiyuki

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論 金

「言語学概論」は前期と後期の２期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が２回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説する課目です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお薦めします。

今期は音韻論、形態論、意味論・語用論、生成文法、社会言語学の５分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は５名の講師が一題ずつ出すテーマから１つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお薦めの授業です。

講義形態 講義形式で進めます。

窪薗　晴夫
くぼその　はるお

オンライン

国立国語研究所客員教授

酒井　智宏
さかい　ともひろ

早稲田大学文学学術院教授

髙橋　将一
たかはし　しょういち

青山学院大学文学部英米文学科教授

プロフィール下記以外は各講師の講義欄参照

長野　明子
ながの　あきこ

静岡県立大学大学院国際関係学研究科教授

津田塾大学大学院文学研究科後期博士課程修了。博士（文学）。専門は形態論、語形成。主要な著書・編集として、Conversion and Back-Formation in English (Kaitakusha, 2008, 市河賞受賞, 単著),『形態論とレキシコン』（開拓社, 2020年, 共著),『比較・対照言語研究の新たな展開―三層モデルによる広がりと深まり―』（開拓社, 2022年, 共編),『英語と日本語における等位複合語』（開拓社, 2023年, 共著）, Competition in Word-Formation (Linguistik Aktuell 284, John Benjamins, 2024, co-editor), Word-Formation Processes in English (Special issue in the journal Languages, 2024, guest-editor) など。

嶋田　珠巳
しまだ　たまみ

明海大学外国語学部教授

2007年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了。博士（文学）。著書に『英語という選択―アイルランドの今』（岩波書店 2016年）、共編著に『言語接触―英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』（東京大学出版会 2019年）、『時間と言語』（三省堂 2021年）、共著書に『時間はなぜあるのか？―チンパンジー学者と言語学者の探検』（ミネルヴァ書房 2022年）、論文に “Speakers' awareness and the use of 'do be' vs. 'be after' in Hiberno-English”, World Englishes 35, 2016年など。現在の中心的な研究テーマは「言語知識と言語変化―アイルランド英語使用データに基づく社会的意味形成の理論と検証」。

原典の精読を通して認知文法の本質に迫る

認知言語学Ⅱ　Langacker を読む　認知言語学　金

昨年度までに引き続いて、「言語（表現）の意味とは何か」、「文法は意味とどのように関係しているのか」、「語彙と文法はいかなる関係にあるのか」、「そもそも文法(的な知識の単位)は何のためにあるのか」、「言語の使用を可能にする知識とはいかなるものか」等の言語学の根本問題に対する認知文法 (cognitive grammar) の考え方を、この理論の創始者 Ronald W. Langacker の著作を深く正確に読み解くことを通して、多角的に検討します。

昨年度と同じく二部構成にし、前半では認知文法の全体像を把握するのに適した文献（一部は昨年度までと同じ）を題材としますが、後半では特定のトピックや現象のうち昨年度扱えなかったもの（grounding、subjectivity、effective/epistemic control、metonymy など）に関する論考を精読する予定です。

英語が専門でない人にも原典に真剣に取り組むことの意義と楽しさを十分に共有していただけるように努力します。また、私自身のこれまでの研究についてもお話しできたらと考えています。

西村　義樹（にしむら　よしき）　オンライン

東京大学大学院人文社会系研究科教授

専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。
1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程(英語英米文学専攻)中退。
『構文と事象構造』(共著、研究社、1998)、『認知言語学Ⅰ:事象構造』(編著、東京大学出版会、2002)、『明解言語学辞典』(共編著、三省堂、2015)、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ:生成文法・認知言語学と日本語学』(共編著、開拓社、2016)、『メンタル・コーパス:母語話者の頭の中には何があるのか』(共編訳、くろしお出版、2017)、『認知文法論Ⅱ』(編著、大修館書店、2018)、『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(共編著、開拓社、2019)、『認知言語学を拓く』、『認知言語学を紡ぐ』(いずれも共編著、くろしお出版、2019)など。

テキスト・参考文献　参考文献と授業で参照するテクストは受講者と事前に共有します。
この課目で前提とされる知識など　西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室』(中央公論新社)には目を通しておくことをお勧めします。
講義形態　講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

理論言語学講座夏期集中

※100分×10コマの講義の時間数を３日間で変則的に組み込みます。
時間割が決まり次第、研究所公式サイト等でお知らせいたします。

世界の言語のヴォイス現象を理解する　8月8-10日

言語類型論　ヴォイスの言語類型論　言語学特殊講義

対面＋オンライン（予定）

長屋　尚典（ながや　なおのり）

東京大学大学院人文社会系研究科准教授

PhD in Linguistics (Rice University, 2011)
フィリピンやインドネシアで話されるオーストロネシア諸語を中心に言語類型論の観点から研究しています。最近書いた論文に "Languages of Flores and its satellites" (The Oxford Guide to the Malayo-Polynesian Languages of Southeast Asia, 2024), "Motion event descriptions in Tagalog" (Motion Event Descriptions from a Crosslinguisitc Perspective, 2024) などがあります。note (https://note.com/norinagaya/) でときどき言語学に関する記事も書いています。

世界には7,000を超える言語が存在すると言われますが、その文法構造は多様です。特に、ヴォイスと呼ばれる現象をめぐっては多くの研究が積み重ねられており、言語類型論のなかでも重要な領域をなしています。

この講義ではそのようなヴォイス現象について最新の言語類型論的研究をもとに俯瞰的な理解を得ることを目指します。具体的には、2019年に出版されたヴォイス現象に関する包括的な教科書である Grammatical Voice の内容に沿って講義します。

扱う内容は、受講者の関心や進度による部分もありますが、以下を考えています。

- 使役 (causatives)
- 逆使役 (anticausatives)
- 適用 (applicatives)
- 逆適用 (antiapplicatives)
- 受動 (passives)
- 逆受動 (antipassives)

想定している受講者としては、世界の言語の多様性に興味がある方から実際に個別言語のヴォイス現象の研究をしている方までです。さまざまなバックグラウンドを持つ受講者を歓迎します。

テキスト・参考文献 Zúñiga, Fernando & Seppo Kittilä. 2019. Grammatical Voice. Cambridge: Cambridge University Press. 教科書の第1章・第2章・第3章の120ページ程度の内容を扱います。教科書を手元において受講していただくのが一番ですが、教科書がなくても理解できるように授業するつもりです。
この課目で前提とされる知識など 形態論・統語論にかかわる基礎的な知識があることが望ましいですが、補足しながら授業を進めます。
講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

人間の言語理解のしくみを考える　8月15-17日

言語心理学　人間の言語処理　言語心理学

対面＋オンライン（予定）

広瀬　友紀（ひろせ　ゆき）

東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻教授

1999 年 The City University of New York にてPh.D. in Linguistics 取得。心理言語学のなかでも、特に人間の言語情報処理に関心があります。言語発達過程の子どもがどのようにその知識を運用するかにも興味があります。著書に『ちいさい言語 学者の冒険』(岩波科学ライブラリー)、『子 どもに学ぶ言葉の認知科学』(ちくま新書)、『ことばと算数 その間違いにはワケがある』(岩波科学ライブラリー)。

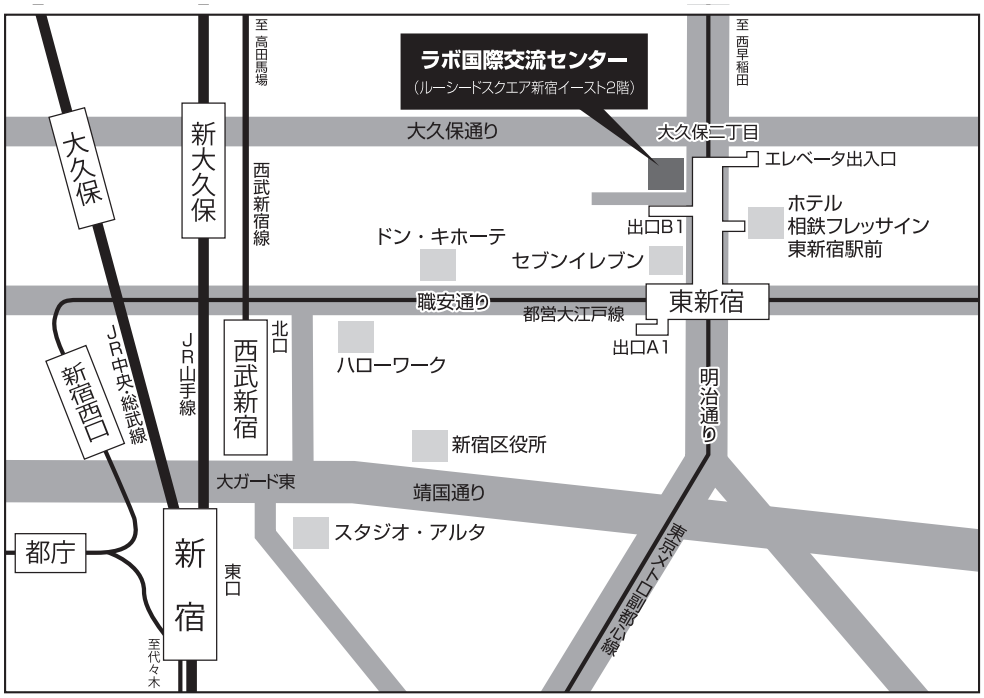
言語心理学とは、言語運用にかかわる人間の認知のしくみのあり方、過程を探る分野です。言語に関する知識というものがあるとして、それを人間がいかに獲得するのか、そしてそれをどのように使いこなす(理解および産出にかかわる「処理」)のか、ということについて考えたり、各種実験で調べたりします。私たちが普段当たり前のようにリアルタイムで言葉のやりとりを行っているという事実がいかに不思議ですごいことか実感していただけることと思います。本講義では、特に、人間が音声・語・構文などの情報をリアルタイムに処理するしくみについて扱います。初学者を想定した講義形式が中心のスタイルとなりますが、実際の研究にも触れながら議論を行う機会も設けたいと思います。

テキスト・参考文献 教科書はありませんが、授業がよりわかりやすくなる参考書としては:川添愛『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』(朝日出版社)、広瀬友紀『子どもに学ぶ言葉の認知科学』(ちくま新書)
この課目で前提とされる知識など IPA の表を、暗記はしていなくてもどのように分類されているか何となく解っている、および、簡単な文の構造を図示できることが望ましいですが必須ではありません。
講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

教室地図

一般財団法人 ラボ国際交流センター　東京言語研究所

〒169-0072　東京都新宿区大久保 1-3-21　2F
TEL:03-6233-0631　FAX:03-6233-0633
E-Mail:tokyogengo@labo-global.co.jp　http://www.tokyo-gengo.gr.jp/



- ●東京メトロ副都心線「東新宿駅」出口 B1 より徒歩 1 分
- ●都営地下鉄大江戸線「東新宿駅」出口 A1 より徒歩 5 分
- ●JR 山手線「新大久保駅」より徒歩 10 分
- ●西武新宿線「西武新宿駅」より徒歩 15 分